

CKJSだより

第68号

校長 松平 昭二

shoji_matsudaira@hotmail.co.jp

酔っぱらい言葉

「先生、ごみ」

「先生は、ゴミなんかではありません。人間です。それを言うのだったら『先生、このゴミはどこに捨てたらいいのでしょうか』でしょう?」

「先生、トイレ」

「またあ…。先生は、トイレではありません。それを言うのだったら『先生、トイレに行きたくなったのですが、行ってもいいのでしょうか』でしょう?」

「先生、気持ち悪い……」

「まあ、失礼ね。そりゃ、先生はあなたのお母さんほどではないかもしれないけれど、『気持ち悪い』とはあんまりね。それを言うのだったら『先生、気分が優れないんですけど、保健室に行ってもいいのでしょうか』と言うのでしょうか?」

最近、教室の中にもこのような「酔っぱらい言葉」が侵入してきているそうです。(本校ではありません)言語環境は、日に日に悪くなるばかりです。

「酔っぱらい言葉」とは、こういうことです。人間、酔いが深まると、修飾語、副詞、接続詞そして助詞と次々にはげ落ち、むき出しの「オイ、酒!」「オイ、枝豆!」となっていくます。ここまできると、相手への心遣いもなければ思いやりもありません。言葉が暴走し、名詞と名詞が衝突します。「オレをゴミとは何だ」「トイレとは何だ」「気持ちが悪いとは何事だ」という具合です。

言葉の技能(コミュニケーションスキル)が問題になっています。挨拶をしっかりと、敬語をどうするか、等々をめぐってです。子どもたちには、正しく美しい日本語を身に付け、心を豊かにするとともに、よりよい人間関係を育んでももらいたいと願っています。

「先生、きれい」

「ありがとう!」

「いや、先生ごめんなさい。『先生、このバラの花はとてもきれいですね』と言いたかったのです」

「……」



毎土曜日の朝、私は登校する子どもたちを迎えに出ていますが、子どもたちは元気に「おはようございます」と声をかけてくれます。コミュニケーションをとるためには、「おはようございます」「ありがとう」などの言葉をしっかりと声に出して、相手に伝えるようにすることが大切です。

言葉は、人間関係を築く基本となります。ご家庭でもご指導よろしくお願ひします。

先週の CKJS だよりでお知らせしましたが、小学部 5 年の内山一志さんが海外子女文芸作品コンクールの作文の部で佳作入選しました。以下にご紹介します。

「ありがとう」から始まって

小学部5年 内山 一志

3年生の秋ごろ、ぼくは「お父さんの仕事の都合で4年生の夏にアメリカへ行くことが決まった。」と、知らされた。

「アメリカ？」ぼくは驚いた。そして、アメリカには行きたくないと思った。なぜなら、住みなれた日本からはなれることや、友達と会えなくなることがいやだったからだ。他にも英語に不安があった。アメリカでうまくやっていけるだろうかという思いもあった。

あっという間に日々が過ぎ、渡米当日となった。飛行機に乗るのは楽しみだけど、日本からはなれるのはやっぱりいやだった。そう思いながら、飛行機に乗り込んだ。不安で前夜はねむれなかったせいか、飛行機の中ではぐっすり寝てしまった。そして、母に「着いたよ。アメリカだよ。」と言われ飛び起きた。窓の外を見ると、コンクリートの向こうに青々としたしばふが広がっていた。アメリカ本土。僕は地球ぎでしか見たことがなかったアメリカ本土にとうとうおりたのだ。いろいろなところから聞こえてくる英語は、さっぱりわからなかった。どうしようと不安がさらに大きくなった。

アメリカ到着後、2週間ほどで現地校への通学が始まった。学校でもやはり、英語がさっぱり分からなかった。ここはどうするのか、何を説明しているのか、ぎ問だらけの日々だった。けれど、クラスメートがやさしく助けてくれたので、何とかうまく日々の学校生活をやっていくことができた。僕はクラスメートに、ありがとうと思った。でもぼくはまだ自信がなく、声に出してこの気持ちをクラスメートに伝えることはできなかった。

数日後、家族で買い物に出かけた時、ぼくは店のドアの前で、ぼく達の後ろにもお客さんが来ていることに気が付いた。だから、その人のために、ぼくはドアを開けて閉まらないようにおさえた。すると、後ろから来たお客さんは、「Thank you」と言いながら、ぼくにやさしくほほ笑みかけてくれた。それを聞いたぼくは、なんだかうれしくなった。ドアを開けていただけなのにお礼を言われたからだ。日本では、自動ドアが多く、こんなけいけんをしたことがなかった。そして、ぼくは改めて、感しゃの気持ちを伝えることは、かん単なことに対してでもとてもいいことなんだなと思った。今までぼくは、学校でなかなか感しゃの気持ちを伝えられなかった。けれど、ぼくもみんなに感しゃの気持ちを伝えたいなと思うようになった。

それからまた学校に行く日が来た。そしてその日は、勇気を出して助けてくれた友達に「Thank you」と言った。その時の友達の様子は、とてもうれしそうだった。その笑顔を見たぼくも、笑顔になり、うれしい気持ちになった。日本語の「ありがとう」も英語の「Thank you」も、心があたたかく感じるのは一緒なんだと思った。そして、いろいろな人に「Thank you」を言うことができるようになった。そうすると、その他の言葉も少しずつ言えるようになってきた。不安とはずかしさが少しずつ消えていった。でもまだ残っている。なぜなら、長い文章が苦手だからだ。けれど、以前勇気を出して、「Thank you」と友達

に言った時のように、少しずつ長い文章も言えるようになってきた。だから、少しずつ自分の気持ちを伝えられるようになってきた。そうすると、だんだん自信もついてきた。そして、いろいろな人と話せるようになって、毎日が楽しくなってきた。

あんなに不安だった英語とアメリカでの生活だったけど、「Thank you」の一言をきっかけに好転しはじめた。ぼくは、「Thank you」に感しゃしている。ありがとう。そしてこれからも、英語でも日本語でも感しゃの気持ちを伝え続けていこうと思いました。